

町長の政治信条について問う

地域の隅々まで日が当たる

町政が政治信念



稲留 光晴 議員

プレミアム商品券の販売について

稲留議員

町長が「しんぶん赤旗」でのインタビューで政治信条を語られているが、「政治が見捨てた地域の隅っこを照らす町政」とはどういうことか具体的に示せ。また、信条は今後も変わらないか。

政治信条は変わらない

町長

地域の隅々まで日が当たる町政を政治信念として、町民の皆様方とともに町政発展のため今後も努めていく。

商工会と十分協議する

町長

前回のプレミアム商品券について、住民の方々から、700万円も800万円も商品券を買った人がいると聞いている。また、頼まれて商品券を買われた方は、委任状がなく、買われた方は、商工会会員か商工会以外の人かも分からない。単なる利ザヤを稼ぐために行われているという住民の声もある。7月から販売される商品券については、公平に住民の皆さんが買えるようにすべきであると思うがどうか。

「野方あらしの」の活性化について

稲留議員

今後の野方あらしの活性化を、どのようにしていくのか。

野方ICを起点として活性化を図る

町長

野方ICを起点として、野方市街地と学校跡地につないでいけるような活性化策を充実していきたい。

住宅リフォーム助成制度の創設は

稲留議員

現在、大隅地区の4市1町で住宅のリフォームを行う場合に、工事費の一部を助成する住宅リフォーム助成制度が実施されている。この制度は、各自自治体に在住する入札に参加できない個人の工務店、大工さん、小規模業者の方に喜ばれ、助成額の10倍以上の経済波及

職員を派遣し勉強したい

町長

本町では、大崎町空き家リフォーム促進補助金を優先的に今取り組んでいる。住宅リフォーム制度については、志布志市

効果が生まれている。この制度の創設に取り組む考えはないか。

臨時職員の交通費の支給はできないか

稲留議員

臨時職員の方々は役場職員と同じ仕事をされている。最低限交通費の支給はすべきと考えるがどうか。

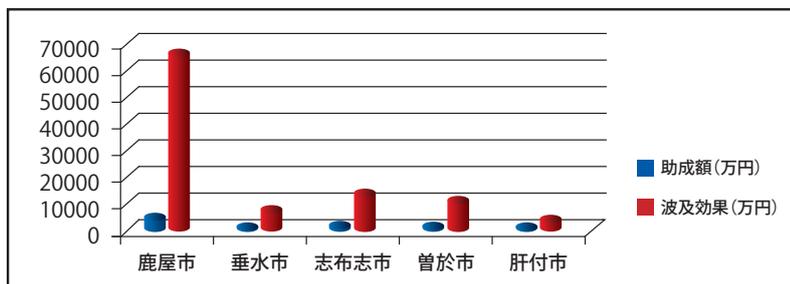
前向きに検討する

町長

現在、大崎町役場臨時職員として雇用している人数は40名であるが、教育委員会関係の用務員、事務手、特別支援員を含めると合わせて57名となる。現在、職員数の減った分を臨時職員で補うような形を取っており、役場の業務を遂行する上で臨時職員の役割は大変重要と考えている。内部でも前から検討していたので、県内各市町村の状況を見ながら前向きに検討する。

単位：万円

自治体	助成額	波及効果
鹿屋市	4905	65600
垂水市	610	7380
志布志市	1300	13000
曾於市	1000	11000
肝付町	600	4500



大隅地区議員団の調査による